

さやま市民大学シンポジウム

これからの市民大学

さやま市民大学とは

日 時 2024年7月19日(金)
14時30分～16時 開場14時

場 所 中央公民館 第1ホール
(狭山市駅西口1分)

定 員 70名(先着順) 費 用 無料

平成26年4月に開設し、10年間に延べ
人数約2,500名(公開講座等を含めると
約4,000名)が学び、活動を行う。

現在は開設10年を機に運営のあり方等
の見直しを図ることを目的として休止
し、令和7年度中の再開を目指している。

パネルディスカッション



コーディネーター

さやま市民大学学長

やまと かず ひと
山本 和人氏

東京家政大学名誉教授
日本生涯教育学会常任顧問

令和5年4月1日～ さやま市民大学学長

当市でのその他の活動歴

平成20年7月 (仮称)狭山元気大学開設プラン市民委員会委員長
平成21年7月 狹山市振興計画審議会委員

主な職歴

令和4年4月1日～ 東京家政大学大学院名誉教授

令和5年1月～ 日本生涯教育学会常任顧問

パネリスト



さか ぐち みどり
坂口 緑氏

明治学院大学 社会学部教授
日本生涯教育学会事務局長

専門

市民社会論、生涯学習論

職歴等

東京都文京区文京アカデミー
生涯学習推進委員、東京都港区
社会教育委員等兼任

主な著書

坂口緑ほか編『デンマーク式
生涯学習社会の仕組み』(ミツ
イバブリッキング2022年)他



こん どう しん じ
近藤 真司氏

一般財団法人 日本青年館
「社会教育」編集部編集長

「社会教育」2024年7月号：
社会教育法75周年を契機に
「社会教育」の過去・現在・
未来を考える
「社会教育」2024年3月号：
2023年度の社会教育・生
涯学習の総括と2024年度へ
の展望



おお さわ ゆ き
大澤 悠季氏

特定非営利活動法人
シブヤ大学学長

留学先の学校で社会的なト
ピックが気軽に話される光景
に衝撃を受け、今帰仁村にて
高校魅力化プロジェクトに携
わる。大人の学び続ける姿勢
の大切さに気付き、自分たち
の生きる社会のことを安心し
て話すことができる学びの場
を作るため、講座企画・プラン
ティングに取り組んでいる。



こおり や ひさ ひで
郡谷 寿英氏

北海道科学大学
全学共通教育部専任講師

専門

社会心理学、生涯学習論

研究テーマ

生涯学習・メディア教育における社
会心理学的アプローチに関する研究
著書

社会教育施設におけるICT活用と今
後の研修等の在り方に関する調査研
究(令和4・5年度社会教育活動の実
態に関する基本調査事業)(共著)他

シンポジウム開催にあたって

本市では、さやま市民大学を平成26年4月に開設し、以来10年の間に延べ人数で約2500名（公開講座等を含めると約4000名）が学び、活動をしてきました。

平成31年4月1日には、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という協働によるまちづくりの理念を明確にした「狭山市協働によるまちづくり条例」を施行しました。その傍らには、「元気な狭山を支える人づくりと人を活かす仕組みづくり」を目指すさやま市民大学の存在があります。さやま市民大学は、実践の中で、人が集う場としての意義を持ち続けてきました。このことは、これからの変化の中でも、重要な役割であると考えています。

コロナ禍を経験し、我々の意識は大きく変化しました。集うことに対する意識、コミュニケーション手段、学びの方法等、選択肢が増えるとともに、目的に応じて適切な手段を選択することが重要となっています。

また現代においては、学生時代の学び、リタイア後の学び、といった単線型のライフステージを前提とするのではなく、学びと仕事、生活と学び直し、といった要素を交互に、あるいは並列して実践するような、多様かつ柔軟な学びのスタイルが求められています。

さやま市民大学は、現在、運営のあり方等の見直しを図ることを目的として休止しています。多くの方々から早期再開を望む声をお寄せいただく中、これからの10年をしっかりと見据え、「協働」の理念のもとに入々が集い、学び、楽しみ、活動する場を皆でつくる市民大学として、令和7年度中の再開を目指しています。

この度開催するシンポジウムでは、各地に数多く開設されてきた市民大学の成り立ち、役割や成果、運営システム、それぞれの個性や特色、課題点、改善点等について、パネリストの皆様から、様々な事例をお聞かせいただき、これからの市民大学を築いていくきっかけにしたいと考えています。